

# 年頭にあたつて

岩見沢市長 渡辺孝一

市民の皆様、あけましておめでとうございます。  
新しい年を迎え、私は、岩見沢の将来を見据え、安全で安心な生き生きとした生活ができる、人にやさしい温かい街づくりの更なる前進を目指して、市政運営に全力を注いでいく決意を新たにしております。

昨年3月に発生した東日本大震災は、未曾有の被害をもたらすとともに、我が国の経済に大きな打撃を与えており、政府は大震災からの復旧・復興、福島第一原発事故の早期収束や除染対策への対応など、大きな課題に直面しています。地方においても、国と協力・連携しながら、それぞれの責任を果たし、震災からの復旧・復興は、国家・国民の責務であり、日本の再生を成し遂げていく必要があると感じております。

また、岩見沢市におきましても、昨年1月、更に12月に大雪が発生し、市民の安全安心を確保するため豪雪対策本部を設置いたしました。  
そして、2月に発生しました学校給食の食中毒により、市民の皆様に多大なご心配、ご迷惑をお掛けしたことにつきまして、誠に申し訳なく思っております。今後の教訓として、しっかりと受け止め、危機管理体制の整備や衛生管理の徹底に取り組みんでまいります。

このような中で、昨年は、喫緊の課題の対応に取り組みながら、市民生活に直結する道路や側溝、上下水道、公園など、計画的な整備を着実に進めてまいりました。今春には、懸案の一つでありましたポルタビルが市民交流施設として再生を図りオープンできる見通しとなりました。食品スーパーの新店、行政窓口や子育て支援施設などの設置により、「である」岩見沢の愛称のとおり、中心市街地の賑わいの核施設となるよう期待をしております。

また、従来の住宅リフォーム事業を小規模な改修や耐震補強、解体などに利用できるように、「あんしん住まいづくり助成事業」として新たに創設したことで、多くの市民の皆様にご利用していただき、市内事業者の受注機会の拡大にもなり、安全・安心な住まいづくりと地域経済

東日本大震災の被災地から避難してきた方々を激励



# 一人にやさしい 温かい街づくり

済の活性化など、相乗的な効果が生まれています。

教育の分野では、岩見沢小学校の校舎・屋内体育館や東小学校の屋内体育館の改築に着手するほか、学校・児童館の計画的な耐震調査・改修に取り組みむなど、安全・安心な教育施設づくりに努めております。

基幹産業の農業では、農業生産基盤の整備のほか、新規就農・農業後継者への支援や地元農産物の販路拡大などを進めています。また、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)への参加は、農業生産はもとより、地域社会全体の存続を揺るがす深刻な事態が想定されることから、関係団体とともに、TPP参加を決して行わないよう国に要請しているところです。

岩見沢市におきましては、現在、様々な課題に直面し、地方を取り巻く環境も非常に厳しい状況に置かれていますが、このような時期だからこそ、将来にわたって安心して住み続けることができるまちを、市民の皆様と行政が一緒になって、しっかりと作り上げていくことが大切であると考えております。また、現在直面している課題を踏まえ、特に次の4点を重点的な分野として位置づけ、積極的に取り組んでまいります。

「環境行政の推進」 低炭素・循環型社会の構築に向けた廃棄物の処理・資源化、再生可能エネルギーの活用、豊かな自然環境の保全など、総合的な環境行政「岩見沢モデル」の構築

「地域経済の活性化」 基幹産業である農業の振興、地域産業の育成・振興と雇用創出、中心市街地活性化など、地域産業・経済の活性化

「子育て・教育環境等の整備」 将来を担う子どもたちの健やかな成長を支え、安心して子どもたちを生み育てることのできる環境づくりの推進

「住民自治の展開」 人口減少や超高齢化の進行、市民生活のニーズや課題に対応するため、行政と市民・団体・企業などの各主体が協働し地域の主体的な取り組みを促進する住民自治の積極的な展開

今後、市民生活の安心を支える的確な対応に努め、直面する課題を一つひとつ着実に乗り越え、市民の皆様にご理解される市政の運営に全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、より良い一年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のあいさついたします。